

「夏休みという、学校・社会生活から解放されたとき、子どもは過去を考え直し、反省し、とらえ直して、自分らしさをとりもどすのであると思う。夏休みが終わると、子どもは一步前進し、成長したように見えるというのは、単に海や山に行つてふだんとは違つた体験をしたというだけではなく、子どもなりに自身身をとりもどす精神作業をしていたからではないだろうか。」(津守真著『保育の体験と思索』P.124)

「夏休みに、別の社会生活のプログラムに追いかけられたら、子どもはまた自分の生活をもてなくなつてしまふ。母親との間のゆつくりとしたつき合ひの中で、幼児は自分自身の生活を最もよくもつことが出来る。母親にとつても、夏休みは子どもと十分つきあつて、ともに考えることのできる機会である。」(同P.127)

私達大人も、ゆつたりとした生活の中で「自分らしさ」をとりもどせる夏休みでありたいものです。少しでも、そのお

手伝いができたらと、今年も緑蔭図書の特集を組み、各方面の方々に本を紹介していただきました。私も緑蔭の名のように、木蔭で、自然の恵みに守られて読書するといふぜい沢な夢を、今年こそは実現させましよう。

水不足で悩まされた昨年'87年の夏。でも事態を深刻に受けとめぬまま、今年も夏を迎えたような気がします。

最近、水に関係深い映画を二本みました。「柳川堀割物語」「愛と宿命の泉」、水とつきあうことにあまりにも無関心だったと考えさせられました。蛇口をひねればすぐ水が出るのが当たり前。私達でも、身近だった川が今、コンクリートでふたをされたり、へいで囲まれていたり、水の流れから離れて暮らすようになっていふと思いませんか? こうして水とのつきあひ方を忘れていき、知らぬ間に、水の問題はのびぎならない所までいってしまふ気がします。

(Y)

幼児の教育 第八十七巻 第八号

八月号 ◎

定価 四〇〇円

昭和六十三年 七月二十五日 印刷

昭和六十三年 八月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 本 田 和 子
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所フレイベル館にお願いいたします

※万一製造不良の点がございましたら、おとりかえいたします。